

令和元年度知事定例記者会見[抜粋]

平成 31 年 4 月 24 日 知事定例記者会見[抜粋]

○共同通信

最初に、幹事社から幾つか質問させていただきます。

九州新幹線長崎ルートに関してなんですけれども、国交省が先日、新鳥栖－武雄温泉間をフル規格で整備した場合、約 660 億円負担などの試算を副知事に説明しました。これに対する知事の受けとめをまずお願いします。

○知事

そうですね、今回、新しい記者さんもおられるので、地図を示します。

もともと我々は、この平成年間、この諫早からぐるっと、簡単に言うとスーパー特急というやり方で公表した。そして、途中、国のほうからフリーゲージトレインというものがあるよという話になって、それについても、ぎりぎり合意したわけです。その間、佐賀県側にしてみると、太良と肥前鹿島、こちらのルートの特急が激減するものですから、太良と肥前鹿島から武雄温泉の方にふりかえるという、ぎりぎりの合意をしてきた。

これまでの間、井本知事、そして古川知事には、そういう状況の中で、この部分(諫早-武雄温泉)はフル規格、佐賀県内、新鳥栖から武雄温泉については在来線という中で、地元負担額が非常に多く出てくる。そして、在来線の問題も出てくる。さまざまな課題が横たわっているこの問題について、ぎりぎりの合意の中で長崎県と佐賀県がお互い知恵を出し合いながら合意してきた。

私になって6者合意をやりましたけれども、あれは令和4年に開業するときにフリーゲージが間に合わないということになったので、本当に佐賀県は非常に辛い状況の中で、さまざまな政治決着も含めた6者合意をした。そこがこの複線化だったりもするわけなんですけれども。

ですので、一番申し上げたいのは、佐賀県はこれまでも、そして今も、この武雄温泉から新鳥栖間について新幹線整備を求めたことはなく、今も求めているということなんです。

ただ、これまで佐賀県は、そういった意味から門戸を閉ざしてもいいんだけど、ずっとずっといろんな人の意見を聞きながらやってきたから、これから 50 年、100 年、150 年、200 年とずっと続くわけだから、いろんな可能性というのはみんな議論していきましょうね言ってきました。そして、財源の問題もそうですし、ルートの問題もそうだし、我々にとって大事な在来線の問題もそうだし、地域振興の問題もそうだし、いろんな課題がありますよねということがあったので、そういった話もしてまいりましたけれども、昨今の議論は非常に短い間で決めるとか、フルかミニか二者択一とか、それを

極めて短期間という全く我々が想定をしていないような議論の進み方をしていることについて、地域のことを大事にしなければいけない、地域あつての新幹線スキームにおいて、我々があたかも条件闘争しているような、そんなことを言われたりもしたので、それは全く本意ではない。我々は求めていなかったし、求めてもないということが大前提にあるということです。

ですから、今、記者さんから質問を受けましたけれども、数字がどうだとか、それについてはいろいろ意見はあるんだけど、そこに1つずつコメントしていくと、そこに議論が集約されるのが我々は非常に恐れている、この状況の中で。我々は求めていない。そして、その気がないということを明確にしておきたいということです。

○共同通信

ありがとうございます。関連でもう一点、与党検討委で佐賀県から意見を聞くという機会が設けられて、知事が出席する方針だと思うんですけども、その日時は決まったのかという点と、あと、今の話で一部重複すると思うんですけども、その場ではどういったことを伝えたいという見通しなのかをお願いします。

○知事

私がヒアリングに行くのは金曜日の午前中と聞いておりますけれども、そこで具体的にどういう主張をするかというのは、いろいろ今思案中ではあるんですけども、基本的には今申し上げたことというのは一つのベースになっていくのかなと思っています。

○時事通信

金曜日の与党PTで、先ほどおっしゃっていた新幹線の関係で、スーパー特急方式というのがあるんじゃないかという指摘をするようなお考えはありますか。

○知事

そういう考えは、佐賀県がする話ではないのかなと思います。これまで合意してきた一つではありますね。もともとはスーパー特急でお互い合意して、途中でフリーゲージという、そういう技術があるからという話があったので、であればということでしたよね、経緯がですね。もともとこの話は長崎側のすごいニーズの中から、佐賀は非常に汗もかきながら一緒にやってきた経緯があるので、そういった意味からすると、今、長崎県があんなにフルと言っている中で、我々のほうで何か提案するとかいう立場じゃないと思うんです。ですから、よく佐賀県のほうから何か出せと言われてますけれども、もともと佐賀県はそういった意味で受け身なんです。我々にとっては、在来線が大事だし、唐津からも、佐賀からも、鳥栖からも、そして鹿島からも。ということなので、そういったことについて我々のほうから言うというのはどうかなと思いますし、逆に言えば、

フルかミニか選べと言われる筋合いのものではありません。

○時事通信

関連してもう一点です。スーパー特急方式だと、佐賀県が望んでいた関西圏への乗り入れというのか不能になるわけですね。博多で乗りかえることで。その点について、佐賀県としてはスーパー特急方式はどう考えているのか。

○知事

それを含めて長崎県がどう考えるかということなんじゃないでしょうか。我々にしてみると、それは途中途中でフリーゲージになったら大阪までつながるよという話があったりとかして、実はそれ自身も非常にまだまだ課題がある話なんです。それでも、そういうことで当時の知事が踏み出したんだと思います。我々にとってみると、それがどうしてもやらなきゃいけないものなのかという中では県内でも大分議論があります。私もこの話はいろんな県民の皆さんの意見も聞きましたけれども、博多とか鳥栖で乗りかえることにそれほどの負担はないんじゃないかという方もおられます。そして、飛行機を使う方もおられるし、そういう中でいろんな議論がなされていったらいいのかなと思いますし、あまり我々のほうからこの案でという立場ではないと思っております。

○朝日新聞

新幹線について追加で質問したいんですけど、今度の金曜日に全線複線化の佐賀県と国交省との意見が食い違っていることについては、何か意見を主張されるんでしょうか。

○知事

改めて佐賀県の主張を申し上げておきたいんですけども、今回、武雄から先の区間についても約 5,000 億円の話が 6,200 億円に増嵩して、上昇しているわけですね。その認可が先だってあったということで、その中で我々とすると、この前、6者合意で、ここは全線複線化に向けて順次やるという話じゃなかったのかということについては、ずっと主張してきたところなんです。そこを国交省は、そうではないと、フリーゲージトレインが前提だと。全く我々にとってはあのとき議論してきたことの意味が、あれはもう最後の最後の政治折衝で、これはきついでけれども、ここを順次複線化していくということであればということで最後にうちがねじ込んで政治決着したところだと。もうはっきり私も覚えております。にもかかわらず、それがフリーゲージが前提だということであれば、じゃ、フリーゲージがだめになったんだったら、あの全てが飛ぶという話になるわけです。

ただ私は、広い大きな考えで言えば、ここから先がフルでやっていくということについては、佐賀県としてこれまでも合意してきたことだから、こっちをフルでやるというこ

とはですね。フルというか、最初はスーパー特急でここは走るはずだった。で、フリーゲージになったわけだけれども。ということで考えれば、こっちの問題とこっちの問題はある程度分けて考えるべきだろうというふうに思ったんです。

ですから、常々申し上げているように、佐賀県は合意したことについては真摯に対応していくといったのはそういう意味で、いろんな事情もあるだろうから、そこも含めて、県民に説明できるものについてはやっ払いこうということだけれども、こっちは何の議論もこれまでもしていないし、何の合意もしていないということなんです。ここもごちゃごちゃにならないように、ここの複線化もこれはこれで主張はしていきますけれども、ちょっと別の問題ということなので、いろいろ状況次第ではその話になるかもしれませんが、我々のほうからあえてその話をするつもりは今のところありません。

○佐賀新聞

新幹線についてお尋ねします。知事は新線区間について、これまで佐賀県としては求めたことがないというふうにおっしゃいましたが、であれば、どうすれば佐賀県はそれを求めてくれる。何かを考える状況になるのかという、そこは何か、どういう環境が調べば佐賀県としてこの整備を考える局面が生まれるのかというのはありますか。

○知事

今考えを持ち合わせておりません。ただ、さっき 50 年、100 年、150 年、200 年と言ったけれども、未来永劫どうだこうだということは、私が将来いろんなことについて閉ざす必要はないと思うし、そういう長期的なスパンでいろんなことを考えていくというのは意味があることだと思うけれども、今回、とにかく誤解を生みたくないのは、短期的なスパンでそんな問題を我々として何か考えがあるかという、それはないということを言っています。

○佐賀新聞

つまり、今の与党の検討委員会というのは、北陸新幹線の、同じ整備新幹線の未着工区間を横でにらみながら議論を急いでいる節があると思うんですが、そこについては全く急ぐつもりはない。そこをにらみながらやるつもりはないということですか。

○知事

いや、ですから、結局今までは北海道さん、この前聞きましたけれども、やっぱり新幹線を望んでいます。函館から札幌、そこをつながないと、確かに北海道の考えもわかるし、北陸の人たちも少しでも早くつくりたいという気持ちは手にとるように私もわかります。じゃ、西九州ルートはどうかという、これまではフリーゲージといった、ここは在来線を使うというスタイルの中で提案していたわけですね。その3つをどのように調整していくのかということが政治の場で、与党PTの中でみんながやりたいとそれぞ

れがありますから委員会が調整してきたわけですよ。我々今、上げているものはない、そこに。だから、利害調整しようにも——わかりますかね、言っている意味。なので、ほかのところに対してコメントする状況じゃないというか。

令和元年 5 月 21 日 知事定例記者会見[抜粋]

○NHK

新幹線に関してなんですけれども、きのうのぶら下がりでも一部お話しなされたんですけれども、長崎県との関係です。それについて、5月14日に長崎県の中村知事とお話しする機会があった、そのことなんです、これの経緯と、どういうことで一致したのかというのをちょっともう一度詳しくお伝えいただければと思います。

○知事

きのうも大分申し上げたんですけれども、我々の認識として、長崎県とは誠意を尽くしてきたという認識もありますし、これまで共同歩調をとったのは、スーパー特急とフリーゲージということで、いずれにしても、鳥栖ー武雄間につきましては在来線を活用するという案でともに手を挙げて、それが与党PTに上がっていったということだと認識しているんです。けれども、今回は全く違うフル規格という、佐賀県が今まで検討の中で、十分な検討を行っていなかったことであつたので、そういったことについては多面的な検討が必要だということで、財政、財務だけではなくて、在来線のあり方だとか、地元や地域振興をどういうふうにJRさんが図っていただけるのかとか、そういった多面的な検討が必要だということです。その議論は、そんなに簡単な問題ではないけれども、これから、環境も変わってくるだろうし、技術開発も起きるだろうし、夢のあるようなさまざまな意見も出てくるかもしれないし、数カ月で決められるような話ではないですよということも常々申し上げてきて、これはずっと私の一貫した立場、思いなんです。

ですから、長崎県が会いたいというような話があつたときには、できる限り日程調整をして、時間をつくろうと思っております。

今回は、長崎県のほうから民間の方とお二人で来られるという話があつたので、私もお会いしましょうということでお会いしました。お昼だったと思うんですけれども、そのときに、先方のほうから知事同士だけでやってもさまざまな課題、論点というか、そんなものがいっぱいあるから、もうちょっと下のレベルというか、事務レベルというか、副知事だったり部長だったりという話だったと思いますけれども、いろんな課題があるよねということについて整理をしてみたらどうかという提案があつたので、多くの課題があるのは私のほうからも申し上げていたし、それは賛成を、いいんじゃないでしょうかという話をさせていただいたら、中村知事も賛意を示されたので、これからいろんな

議論をしていくんだなと思った次第です。それが経過です。

○NHK

その関連でなんですけれども、その3日後だと思いますが、5月17日の定例記者会見で中村法道知事が、近いうちに時間をいただいて山口知事とも話をしてみたい、地元として協力できることについてはしっかり協力しながら取り組んでいかなければならない、そういうことを直接山口知事とも相談をしてみたいと思っていますというふうに、その後の記者会見でおっしゃっているんですけれども、これは、その機会が今後もあるということでもいいでしょうか。

○知事

その会談をした割と直後だったと思うんですが、これはどちらかに確認していただいたほうがいいと思うんですけれども、知事同士で会いたいということと、副知事の会談をしたいとか、その直後だったような気がするので、あれっ、また知事会談かなと。もちろん、会うのは全然いいんですけれども、いろんな局面でお会いする機会も、九州知事会議もあります。いろんなことがあるので、あれっとは思いましたけれども、この前の話からすると、まず副知事か部長か、そういうので会うことじゃなかったかなとは思いましたけれども。結局、その真意はわからないので。

○NHK

最後に、その関連なんですけれども、じゃ、打診があればもちろん会うというおつもりはあられて、あとは最後に長崎と佐賀に関しては非常に緊密な連携が必要だと思うんですが、そのあたり、知事としてはなぜ、どういうふうに緊密な連携を図っていきたいかというふうにどういうふうに思いますか。長崎との連携のあり方というか、議論のあり方というのをどういうふうにしていったらいいなと思われませんか。

○知事

まず我々が気にしているのは、佐賀県も長崎県との合意の中で、フリーゲージトレインというもののの中で6者合意ができたわけですね。6者合意の中で、我々は複線化のことも合意の中に入れて、それがどうなのかなと思っているし、実際、それでこのままいくと、開業時期に鹿島、太良が、いわゆる長崎本線がどうなっていくのかということについて、これもとても大事なことであり、それはそれとして進めていくことの協議が必要だと思います。

令和4年に開業するわけですから、そのときにできる限り武雄と嬉野、それから、周辺地域に効果を出したい。武雄から向こうへやるだけでも、佐賀県は、交付税措置後の実負担だけでも二百二十五億円が、今、二百四、五十億円にこの前増えてしまって、その費用対効果を出すためにも全力でやらなければいけないなと思っているんです。ですから、そういったところに全力を挙げて長崎県との協議をやっていく時期で、

もうあと3年しかないので、ということだと思います。

その上で、次どうしていくのかということに関しても、いろんな方々の意見があらわれます。今日は地元新聞を見ていると、有明ルートでとかいうのが出ていましたけれども、いろんな方々がそういうことを語られることもあるかと思います。そういったことも含めて、時代の趨勢とともに、どういうものがあるのかということも多くの人々の意見を聞きながらということになるのではないかと思います。

○読売新聞

関連で、副知事同士でまずは論点を整理するということがあったんですけども、これまで知事もある程度明確に論点は示されて、もう明確になっているのかなという気もするんですが、長崎県とそういった課題を整理していくということの目的といいますか、その先に、例えば、フル規格を受け入れるという選択肢があるのか、そういうことでの合意なのか、そのあたりはいかがでしょうか。

○知事

これはわかっていたらいると思うんですけど、私はこの数カ月でそんな問題が決まると思っていないんですよ。だから、時間が必要だと、多くの議論が必要だということ、そういう大きな話をするためには、ということをお願いしているわけです。

○読売新聞

大きな話をするには必要であると。このままリレー方式で続けていくということ以外も検討すべきだという姿勢ではありませんか。

○知事

本当にしゃべり方が難しいというか、もう一回言いますけれども、これは長崎県からの話があって、今まで合意したこと2つ、スーパー特急とフリーゲージトレインで佐賀県部分は在来線だったわけですよ。佐賀県はやっぱ在来線が大事だということと、80本以上佐賀の駅を通っているわけです。これがとっても福岡都市圏との関係においても大事だし、これを我々は生かしていきたいという考えのもと、今回それがだめになったのは、国が技術開発できなかったとおっしゃったのでこうなっているわけです。だから、我々はそういうつもりで、ただ、先のことを考えれば、門戸を閉ざさないというのは我々の考え方。ということで、わかりませんか。

だから、数カ月で決まる話じゃないということをお願いしておきます。

○佐賀新聞

昨日、GM21で、古川議員のSNSでの発信で、県民の総意という部分に対して、知事はそういうことを言っていないというふうに言及されましたが、今朝、古川代議士

のSNSでは訂正、おわびをされています。そのことに関して、知事の受けとめをお願いします。

○知事

佐賀県は本当にいろんな懸案があって、私は県内を歩いていて、本当に多くの意見を伺う機会があって、それぞれどういう方向に持っていくのかということ、常に県民全体の幸せを考えながらやっているわけなんですけれども、そうした中で、自分の発言が曲げられて伝えられるというのは、政治家として非常に辛い。特に、本当に今、多様化した社会で県民の皆さん方も、濃淡も含めてどれだけ強くその問題について考えられているかも含めて、本当に幅広い意見があるなと思っています。それをどうやって集約して、どういうふうに知事として課題解決に向けた方策を出していくのかってとても大事なので、ぜひそこに対しては慎重になっていただきたいなと思います。

特に、県民の総意と言われて、それが派生して、他にもこんな意見があるだろうとかって思いますよね。総意と言われたら 100%全員がということだから。それは論理の展開というところと、それから、例えば席に着いてくれないとか、国との議論のテーブルに着かないとか、長崎とのテーブルに着かないとかいうやつとか、できる限りそうやって時間をつくって、多くの意見がある中で、国からの話があればお迎えするようにして、会いたいと言われれば県庁のほうで会うようにしたりとか、できる限りの努力をしているので、その議論をずっとこれからもやっていきたいということも申し上げてきたし。ただ、せんだっての与党PTのときには、このままそういったことも含めて、将来のことも含めて申し上げていたんだけど、佐賀県の本当の気持ちがいっしょに伝わっているのかということについて、県庁内でいろいろ議論をした中で、今回の与党PTの中でのフル規格ということについては手を挙げられないということについてはっきりさせたという経緯があるわけですね。ですので、ぜひこれから佐賀県は新幹線問題だけにとどまらず、多くの国政懸案の中で、県民の皆さん方のさまざまな意見を出していただくと思っているので、その前提として、事実関係だけはしっかりと慎重に出していただいてという気持ちです。よろしくをお願いします。

○共同通信

大きく2点質問させてください。

1点目なんですけれども、また言葉をめぐる問題で、昨日に引き続き改めてということになるんですけれども、長崎の谷川議員が九州新幹線長崎ルートの佐賀の対応をめぐって、まるで韓国か北朝鮮を相手にしているようだというふうに発言をされているんですけれども、この発言について谷川議員から県なり知事なりに何か連絡というか、謝罪とか、そういったものが入ったかどうかという点と、谷川議員は与党検討委のメンバーで、方針を決定づける大事な組織の中におられる立場ということで、そのよう

な立場にある人がこのような発言をしたということについてどのようにお考えなのかということをお聞かせください。

○知事

たしか与党PTの中でも類似の発言をされたと私は記憶しています。ただ、あそこは公開の場ではなかったの、そういったことが世の中に出ることはなかったんですけども、そのときは、我々は長崎県、隣人に対して誠意を尽くしてきたと思っているので、大変残念な思いをしましたが、それでも将来の佐賀、長崎の関係ということも含めてぐっと飲み込んだんですけども、今回また、今度は公の場……

○共同通信

公の場です。長崎ルートの現場視察の際の挨拶で言ったと。

○知事

ということなので、誠意を尽くして膝を突き合わせてやってきたし、これからもやろうと思っているので、何か水を差すような、残念な気持ちになりました。特に谷川議員からのアプローチは、私のところにはありません。

○共同通信

検討委のメンバーという立場からの発言ということはどうに受けとめていますか。

○知事

与党PTの中でいろんな議論がある中で、特に長崎県の選出の議員さんは、大変長崎県の置かれていることについて発言されているなと思いました。

○共同通信

わかりました。すみません、もうちょっとこの問題で申しわけないんですけども、与党検討委の場では、私どもの取材では、韓国を相手にしているようだという趣旨の発言があって——クローズの場ですね。ただ、先日の公の場で言ったというのは、北朝鮮をつけ加えてしまった、韓国か北朝鮮を相手にしているようだというふうに、北朝鮮を加えてしまって、その部分については申しわけないと思っているというふうな話もあったんですけども、北朝鮮かどうかという話についてどのようにお考えでしょうか。韓国ならいいのかという、非常にまたそれは違った問題が含まれていると思うんですけども。

○知事

要は、国際関係になぞらえて、ましてや今、日々非常に国際情勢が動いていて、日韓の問題も日中の問題もロシアの問題もそれぞれ動いている中で、もともと国際関係になぞらえるというところで大変な違和感を持ったわけです。今回、北朝鮮が入ってい

るとか、それって議論になるような話なんですか。そもそもそういうことがあってはいけないような気がするんですね。国際関係も本当にそれぞれの思いがあって交渉している話なので、私の感性からちょっと逸脱しているのです。

令和元年 7 月 19 日 知事定例記者会見[抜粋]

○毎日新聞

二つ目の新幹線ですけれども、与党検討委員会の結論が参院選の後に先延ばしになりましたけれども、その参院選後、結論が出るに当たって、どのように臨んでいこうというふうにお考えでしょうか。

○知事

我々は、これは常々申し上げているように、フル規格、ミニ新幹線に絞られているという違和感を覚えております。これまでもスーパー特急、それから、フリーゲージトレインということについては合意してきた。だから、スーパー特急でやればいいじゃないかという意見もありますし、フリーゲージトレインの開発を待たばいいんじゃないかという意見もあるし、場合によっては乗り継ぎ方式をもうちょっと見てもいいんじゃないかという意見もある、そういう幅広い意見があるんです。

そういう中で、全く白地に近い、全て佐賀県内の区間なので、その区間について全く新しい話である、そして、多額の財政負担が伴う、そして、我々にとって命綱である在来線がどうなるかわからないという状況の中で、早急に短い時間で何かが決められるということに関しては非常に違和感を感じます。

○サガテレビ

話は変わるんですけれども、新幹線の話なんですけれども、知事がこの間の議会の一般質問で、フル規格にする場合の話について、フル規格にするとなると、今後 20 年以上、佐賀県の財政運営はそれを中心とした対応を余儀なくされるといった答弁が印象的だったんですけれども、その 20 年以上というところを、20 年以上という数字の根拠も含めて、どういうお考えのもとに言われたのかを教えてください。

○知事

今、フル規格を叫ばれている方がそんなに実質負担はかからないよ、600 億円という数字をたしか出されたと思うんです。その一つの論点に入るのは私はどうかと思うんですが、今回ちょっと入ってみると、例えば、その前提になる貸付料一つとっても、それだけ九州全部に使われるとか、しかも全てがその建設費に回るとか、そもそもこれは繰り上げて使われているところもあるし、そういったところの整理というの

が全くできていないのに、何となくその数字をたまたま当てはめているというだけだし、交付税措置の問題だって、交付税がどうなるかという話もありますし、そもそも建設費だって、武雄から向こうだって、もともと5,000億円が6,200億円に増えているわけじゃないですか。増えますよ、がっつと、事業費がこれからどんどんね。

ということを考えて、600億円を20で割ったってとんでもない額になるのに、私は少なくとも1,000億円以上かかると思っています。そういうようなことをずっとこれから、償還していくんです、将来の人たちが。佐賀県の人たちが。長崎県はゼロですよ。佐賀県だけがずっと、長崎県よりも多くの負担でこれから何十年も僕らの十字架としてやっていくときに、先ほどから私が説明しているように、佐賀県はいろんな佐賀県らしい仕事をしたいわけです。福祉も教育もね。そういうところにめり込み方が半端ないんです、各年の。今、景気だってそんなに悪くない。税収だってそこそこ佐賀県は入っていて、こんな時代がずっと続くかどうかは、私はある程度厳し目に財政運営は図らなければいけないと思うし。しかも、在来線ですよ、やっぱり。佐賀駅を八十何往復も通っているというのは、とても我々にとって貴重なことだし、例えば、佐賀県と比較対象するというのは、どうなんだろう、福岡からいうと、距離的にいうと大牟田。大牟田は新大牟田駅ができて、料金は1.6倍になって、特急は1時間に3本走っていたのが1本になって、本当に新幹線が通ったことによって客が増えたかという、増えていなくて。距離感からすると、そういう距離感ですよ。佐賀駅から鳥栖駅って15分ですよ。15分の距離というのは、東京でいうとどこ。新宿一品川間。

だから、いろんなことを考えていくと、我々はこれまでの間に、佐賀県は長崎県のこととも考えながら、ぎりぎりの線で、この在来線を活用するというフォームで、スーパー特急とか、フリーゲージ——これは国が言い出したことですからね、フリーゲージは。というところで、ぎりぎりそこまでだったら、なぜなら、スーパー特急かフリーゲージだったら、もうここで終わっているから。もう工事は終わっているわけです、今、武雄まで。在来線が通るわけだから。ということを知っていただかないといけないと思うし、今、私が言ったような話というのは、なかなか県民の皆さん方はそこまでしっかり勉強されたりは難しい、この問題はですね。新幹線はあった方がいい、ないほうがいい、それはあった方がいいという人が、普通は思う人が多いと思うので、ここはよくわかっている佐賀県政、県庁がしっかり説明をしなければいけない、しっかり信頼を受け得るような動きをしていかなければいけないと痛切に感じているところです。

令和元年8月28日 知事定例記者会見[抜粋]

○NBC

概算要求段階ではアセスの予算が見送られましたが、それについて改めて受けとめをお願いいたします。

○知事

私が情報収集している限りでは、それこそ年内いろんな可能性も含めて、柔軟に対応するとおっしゃられていたので、それだけをもって何かコメントする状況じゃないかなと、予断を許さない状況なのだろうというふうに思います。

○記者

4者協議を進めてくださいというような話でしたけど、それは佐賀県も含めてということのようですが、こちら辺の受けとめはいかがでしょうか。

○知事

それは、前から話していた、例のスライドがありますか。

基本的に我々は、前からいろんな新幹線整備について、特に新鳥栖・武雄温泉間につきましてはいろんな議論があるところですよ。その中で、今リレー方式というふうなことで、6者合意で、フリーゲージが間に合わないからということで合議されたこの6者合意が平成28年にありました。とりあえずこれで暫定開業するということになっております。もともと平成4年に地元合意をして、そもそもスーパー特急でつないでいくということでした。ですので、これも当時は在来線を通っていくことになります。そうこうしているうちに、国のほうがフリーゲージトレインという話がありましたので、それでもよかろうということで、佐賀県もこれに合意して、在来線を通って行くんだなということでこれも合意したわけですね。

ですから、いずれにしても佐賀県はこれについては合意しているわけです。ですから、もしスーパー特急で武雄乗り換えを回避したいと言うなら、我々はこれについては合意しているわけですから、何ら異議は挟まないわけです。フリーゲージを待つということについても、もともとフリーゲージでやるということでありましたから、それについても我々は意見を挟む状況にはないわけでありますから、そして、このリレー方式でとりあえず状況を見守るという判断も我々としては合意しております。

これについては、我々がいろんな皆さん方と協議しながら、かんかんがくがく議論しながら折り合ってきた。九州全体の発展のために、そして佐賀県として今の制度の中でできることについて合意をしてきたわけですがけれども、ちなみに、この右に並んでいる2つについては何らそういった議論を我々はしたことがない。全くゼロからの問題なのでありまして、もしこっちのことについて議論をするということであれば、ゼロからしっかりと我々県も、そして県民も、そして県議会も議論する必要があるって、県の中で意見交換をしっかりとした上で関係者と交渉していくというプロセスが当然こっちでやってきたように、この2つに関しても必要だと思えます。

ですので、我々からすると、全体としていろんな議論をしていくということについては、もうずっとかねてから申し上げているようにやぶさかではないんですけれども、決め打ちでフルという、決め打ちで、さまざまな選択肢がある中で、そして、それを前提

としたような協議というのは、我々としてはあり得ないというふうに申し上げているわけです。だからそういった協議にのせていただくわけには、その前提として、ここだけって。それはいつも申し上げているように、整備新幹線というのは地元の意思というものがとても大きいからです。ですから、これまでも長崎県とも向かい合ってきました。ですから、最近、長崎県さんから、一部の政治家からいろんな揶揄するような言葉があるにとどまらず、さまざまな工作が佐賀県内のいろんな方々になされているということに関して、私は大変これは失礼なことではないかと思っています。

そして、そういったことに関して、本当に困ったもんだと言われる県民の方もおられますので、もう少し隣人に対する、これまで、そして我々はずっといろんなことに対して協議申し上げてきたわけですから、そういったことに対する配慮というか、佐賀県民の気持ちということ、そして、佐賀県としても真摯に向かい合ってきたのでということをお考えいただきたいなというふうに思います。

○記者

その工作というのはどういったことが行われているんですか。工作、佐賀県内の方々に。

○知事

佐賀県のいろんな団体のリーダーに迫ってくるというか、それはつぶさには申し上げられませんが、ということをよく聞いております。

○記者

今の知事のお考えを聞いていると、9月議会でどのぐらい新幹線が議論されるのかとか、そういったのを1回見守ってから4者協議のほうに出ていくかというのを考えたいということでしょうか。

○知事

ですから、私は議論にのらないと言っているわけではなくて、しっかりとその議論をする上での手順というか、いろんな考え方があるんじゃないかと思うんです。私は、フル新幹線というのは佐賀県に対して非常に今課題が多いと思います。ただ、これからいろんな幅広いことに関しまして議論をしていくということに対しては、避けているわけではないので、そういう姿勢でこの9月県議会に向き合いたいと思いますし、その中で、議員の皆さん方がどういうお考えなのかということの意見交換をなされると思いますので、いずれにしても、年内に何か決着をつけようとか、そういうふうな決め打ちのような形での工作とか、そういったことというのは本当にやめていただきたいなと思います。

○記者

今、知事の発言の中で、決め打ちというのはあり得ないと。きのう与党PTの中では、

フル新幹線、フル複線だということが報告されているわけなんですけれども、となると、その時点で既に決め打ちということになってしまうのではないかと。すなわち、議論が進まないというか、そのフルというのを取り消すというか、方向を改めないとか知事としては議論にのれないという理解でよろしいのでしょうか。

○知事

私も与党PTと、今度、国が4者協議でやるのかわかりませんが、その関係もよくわからない。私ももともと申し上げているように、PTというのはもともと手を挙げている人たちで、新幹線をやりたい人たちの中でどういうふうに調整していくのかという会なのかなと私は認識していたので、我々は少なくとも新鳥栖－武雄温泉間について、フル規格に手を挙げたこともないし、手を挙げてもないので、そこで扱われているということも不思議な感じがするんですけども、いずれ、国がその調整をするということの意味というのもしっかり聞いてみたいというふうに思いますし、我々はこれまで与党PTに3回出席して、佐賀県としての主張はさせていただきました。それに対して、それをどう考えたのかということについてのお答えをいただいております。ミニ新幹線の話はなかったよねというのが書いてあったような気がするんですけども、我々が主張してきたことに対して、それに対しての受けとめだとか、例えば、フリーゲージトレインというのは国ができないというふうに言ったわけですけども、それについて、それがどうしてなのかという総括的な話というのはまだ聞いたこともないので、ますますこれ手順がおかしいんじゃないのかなと、真摯に対応して、事実関係に基づいてやっていくということが大事だと思いますし、そして、長崎県知事がよく会ってくれないとか、断るとかいう話が出ていましたけど、もともと長崎県知事との間でこれは事務的な整理をするという話になったので、そういうふうに、じゃ事務的にいろんな問題点、課題を整理してねという話をしておいて、断ったという話も、そういうふうな話になったから、うちの事務が断ったわけで、そんな話じゃないよねと。だから、私はよく知らないんですけど。だから、そういったこともあるし、もし仮に中村知事が私と会うというなら、私に直接連絡をくれればいい、ただそのときは、今まではフルの意義とフルをお願いしますということしかなかった。やっぱりトップ同士が会うときには、今回はこういう内容で新しい提案をしますからということであれば、例えばね、会うんだけど、時間をとって会ってお願い、時間をとってお願いということであれば、本当にトップ同士が会うという意味も、会うことは全く私もずっと協議はいいしと申し上げているので、その真意が何でわかってくれんのかなと。

○記者

要するに、知事が言いたいことは、仕切り直しをするという議論であればやってもいいということじゃないですか。例えば、平成4年に実質的な長崎ルートの話がスタートして、スーパー特急でスタートして、それから、フリーゲージトレインになって、一貫し

て在来線活用じゃないですか。

○知事

そうです。

○記者

だから、フルになると次元が違うので、そうするのであれば何らか仕切り直しが必要じゃないか。例えば、新しいスキームを考えるとかですね。だから、その話をしますから乗ってくださいよということであれば乗るということですか。

○知事

私は今のフルに乗るということ自体が、今、フルだけと決まっているわけですから、そうすると、佐賀県が同意したと思われるというのは非常に問題だと思っています。そうすると、やはりこれまでいろんな国と地方との関係ってあるんですけども、地方が一旦オーケーしたのに対して、後からいろんな議論がなされることは間々ありますけれども、今回、我々は一度も合意していない。これまで、今お話を受けたように、ずっと在来線活用型でということでした。それは長崎県さんの思いも踏まえてということなので、一旦そこを了解したという流れになると、もうそうした形で次から次へと来て、あとは負担金の請求書が来るという形になってしまうので、これはどうしても避けなければいけないと思いますし、私は特に、県財政ということとはとても大事だと思っています。いろんなところでいろんなことをやってもらいたいと求めている県民がある中で、それにできる限り応えていきたいと思っています。そして、国スポというのを今ターゲットにしているので、今非常に財政的には何とか頑張って健全なところを維持しているが、これから悪化していきます。そんなに悪化しないところでとめて、何とか未来の佐賀県の子供たちにもっともっと明るい佐賀県を準備しておきたいと思う中で、この問題で常に負担金で毎年拘束されるというのが、財政計画から見ると、もう火を見るよりも明らかなので、ましてや在来線はとても大事なところで、例えば、佐賀駅から新鳥栖駅まで12分ですよ。渋谷一品川間、しかも、新鳥栖はもう大阪とつながっているんです。

そういういろんなことを議論しながら、じゃ、どうすればいいのかということ議論することになると、少なくともそんな短期間で決まるような話じゃないというのが私の認識です。

○記者

新幹線がフルになった場合の負担の重さというのは、知事、重々、よく言われていることですけども、例えば、きょうみたいな災害のときとかそうですけれども、災害に強いとか、フル規格のメリットについての評価というのは知事はどう考えていらっしゃるんですか。

○知事

佐賀県にとってのメリット。どうでしょうね。少なくとも、私は今の課題がとても大きいと思っているので、小さいことはいろいろあるのかもしれませんが。小さいというか、課題の大きさを意識してしまうと、それを何か口にする気持ちになかなかない。

○記者

メリットに対して、デメリットが大き過ぎるという評価ということになりますかね。

○知事

そうですね。特に、在来線がどうなっていくのか、これもいろんなところの研究を我々はしているので、これからどういう流れになっていくのか。今のJR九州の経営の方向性も含めてですね。

それから、佐賀県をこれから運営していく中で、佐賀県って非常に新しい独自の世界に誇れるものをつくるために、いろんな種をまいていきたいなと思っていて、あまり経常的な経費に激しく取られるというのは非常に抵抗があるということと、ルートの問題もそうなんです。じゃ、フルフルと言って、県内で、もちろんフルがいいと言う方もおられますよ、そこだけつながらないのは何かどうか。つないであげればいいじゃないかという方も私も聞いています。ただ、その方も、やっぱり山を通す。貨物をうちでという方がおったりとか、やっぱり佐賀駅だという方もおられれば、佐賀空港をむしろ、これからハブ空港にするためにも、南に来るべきじゃないかという方もおられます。

そんな状況の中で、これを前に進めることが佐賀県民にとって幸せな未来が待っているこれ、大変県内で割れて、いろんな議論があります。それで地域振興の問題もあります。私はいつも言いますが、唐津線や筑肥線をもっと高速化するとか、ICカードを佐賀駅から武雄、佐世保まで入れていくとか、複線化をどうしても山口から武雄間も、何か反故にされましたけれどもやりたいとか、いろんな、あと、ダイヤをもうちょっとしっかりと地元の子供たちのために設定してあげたいとか、そういういろんな思いがありますけれども、そんなことを全部トータルで考えたときに、とても今の環境の中で将来に責任を持つ知事の立場として、安易にここで話に乗るというふうには思えない。

そして、それこそどうなんでしょうか、こういう環境下で、例えば、国防とかいうところであれば、ある程度国が責任を持ってということがあって、我々としてさまざまなチェックをしながらも協力しなければいけないこともあるんだと思うんだけど、この地域振興的な、しかも、自分たちの多額の負担を伴うものに対して、仕事の進め方としてどうなのかなというふうに私は思いますけれども。

私も県内、いろんな方々から声をかけられたり、自分から意見交換しますけれども、もう要らんよと言う方がかなり多いというのが実感であります。

令和元年 10 月 16 日 知事定例記者会見[抜粋]

○日経新聞

新幹線についてお伺いしたいと思います。

赤羽大臣と1対1でできれば話をしたいという話を先日されていましたが、国交相との面会が今月下旬という話も出ていますけれども、ここの決まっているところがあれば教えていただきたいんですけども。

○知事

私は 10 月の下旬で調整していると聞いておりましたが、今、赤羽大臣も災害対応で大変だと思いますので、その辺も踏まえて最終的に日程がセットされるんじゃないかと思っています。

○日経新聞

もし面会が実現した場合は、知事は常日ごろおっしゃっているように、佐賀県の立場を新しい大臣に知ってもらおうと、そこがまず基本で、そこから忌憚のない意見交換をということだと思えますけれども、大臣のほうからゼロベースからという話が出た場合には、そこはかなり突っ込んだ話をされるお考えはあるのでしょうか。

○知事

我々はゼロベースというか、本当に前ここに5つ出しましたけれども、全ての可能性について。この赤い線が狭軌です、ここね。いわゆる線路の幅が狭いやつです。この緑と白のぐりぐりとしたやつが標準軌なんですね。この黒い二股が入っていると高架とかでフル規格っぽいやつで、上に上がった、わかりますか。そうすると、我々が言っているスーパー特急とか、フリーゲージとか、リレー方式、この3つは我々が合意しているので、どうぞと言っているやつですね。ここの武雄ー新鳥栖間が赤い線、狭軌なんです。狭軌であることがわかりますよね。それであればということなんですね。だったら、例えば、フリーゲージで新大阪まで結ばれるなら何とかぎりぎりいいかなとかいろんなことを言ってきたのは、全てここがこの線だからです。ちなみに、ミニとフルは、これを見てください。全く違う形式ですね。ですので、今お話があったゼロベースからということというのは、これは全部を、こっちも含めてゼロベースということであれば、我々にとってみるとじっくり時間をかけて議論することは拒否していないので、そういうことかどうかというところが極めて大事だと思っています。

ですから、ゼロベースが与党が決めたようなこれを考えるためにつくるような、そんな協議では我々は応じられないと言っているのです、そのあたりの見きわめをさせていただきたいということだと思います。

■新幹線西九州(長崎)ルート資料(PDF)

○NHK

新幹線のお話で補足で質問をさせていただきます。

先ほどご説明があって、そのあたりの見きわめをさせていただくと最後におっしゃったんですけれども、それは大臣と会って話す内容を見きわめるということでもいいのか、それか赤羽大臣の姿勢を見きわめた上で会うかどうか決めるのか、どちらでしょうか。もう会うことは決められているということなんですか。

○知事

赤羽大臣とはお会いすることになると思っています。そして、私は赤羽大臣とお会いしたときもそうですし、昨日までの国会での質疑とかを見ていると、非常に誠意があって、何というんでしょうか、信頼できる方じゃないかなと思いますので、ぜひ一対一で話をさせていただいて、お互いの思いというものをしっかり話をさせていただくことができたらと思います。

そして、もちろん大臣との話だけで全て見きわめるということではなくて、それも大きな要素ですけれども、いずれ水嶋鉄道局長さんとも、これは別件ですけど、またお会いすることがあると思うので、いろんな意見をやりとりする中で、その考え方というのを見きわめていきたい。そして、我々として、もちろん県民、そして県議会の皆さん方にもその状況を説明しながら進路をとっていきたいと思っています。

○佐賀新聞

先ほど知事、新幹線に絡んで、鉄道局の水嶋局長とも別件でお会いする機会もあるかもという言い方をされましたけれども、これは大臣と今回会うものとは別に、どういう目的で、どういうタイミングで会うことになることを想定されていますか。

○知事

鉄道局にいろいろ話したいことというのは、むしろ地域振興的な視点というか、例えば、長崎本線の在来線の普通列車をもうちょっと改良してほしいとか、ICカード化だとか、いろいろ意見交換したいこともありますし。それと、私は議論することは全くやぶさかではないと思っています、なので、今回、大臣と1対1で会いたいという話、これは政治家同士として、いろんなことを抜きにして、2人で話をしたいということであって、別に、さはさりながら、ちゃんと水嶋局長ともいろんな話をさせていただこうと、そういう機会もあるんだろうという趣旨です。

○NHK

新幹線の関連なんですけれども、国交大臣が誠実な方であられても、佐賀の事情

に詳しくて、かつ理解を全面的に示すかというのは完全に未知数だとは思いますが。その中で、さしでお話をする機会があったとして、知事は特にどのあたりを強調して説明なりたいというふうに思っていますか。

○知事

まだはっきりとは考えていないんですけども、少なくとも佐賀はこれまで信義を大事にしながら、真っすぐに交渉してきたと思うし、私は佐賀県の理解がなくて前に進めてしまうやり方というのは、国のあり方としても僕はとても危険だと思っていて、その部分をわかっただけじゃないかなと思うんです。特に、人の気持ちとかそういったところを公明党はいつも優しくするというので、うちの県議会でもそうですけれども、そういう主張が多いので、そういう上から畳み込むようなやり方ということに対して、どうお考えなのかと思います。

○NHK

それは与党検討委員会の結論のあり方というものを佐賀県はどういうふうに受けとめたのかという部分を説明されたいということですか。

○知事

そうです。仕事の進め方としてね。ですから、これまでの経緯だって、うちはこうやって在来線前提のもとでいろんなことを協議に応じてきたし、もちろん長崎県さんとも協議をしてきたし、北部九州全体のことも考えながら、ぎりぎりの選択をしてきたということもあるわけで、しかも、もともとこれは国がスーパー特急で認可したりとか、フリーゲージができるんだよという話になって、それに乗ったりとか、でもやっぱりだめだったと。だったら国が、地元とずっとそうやって話をしながらやってきたやつを、突然何か、僕らが技術開発できなかったから、フルと決めたからねということだから、それはどう考えても佐賀県というか、佐賀県民、佐賀県議会、そういったところの議論というところが義があるんじゃないかなと私は思って、そういったことについても御理解いただけたらなと思いますけど。

令和元年 11 月 19 日 知事定例記者会見[抜粋]

○西日本新聞

もう一点、別の九州新幹線の西九州ルート問題で、先月末、赤羽大臣とお会いして、一対一で面談されたと思うんですけども、その中で率直な意見を交換し合い、今後も確認していきましょうというようなお話をされたと思うんですけども、また、今後お会いする予定とか、何かありますでしょうか。

○知事

あのときの会談の中で、大臣とは今後とも話を継続していきましょうということで合意しておりますので、今のところそういった話はあっておりませんが、先日会ったときには、それぞれの思いを語ったというところでとどまっているので。

それで、ちょっとパネルありますか。(パネルを示す)記者の皆さん方は、もう私とずっとしゃべっているのだからわかっていらっしゃると思うんですけども、誤解があっただけではないので言いますけれども、我々は、この3つはもうこれまでに合意しているんです。5択で議論しましょうと言っているんです。ですから、たまに間違った報道がなされるのは、1つは、このフル1択とか、そういったところに佐賀県は協議の場に着かないとかいう話をよくされてしまうだけども、5択だと我々は言っているんです。それはなぜかという、我々は今までこの3つについて合意してきたわけであって、その話はずっと与党のPTでも言ってきて、フルとミニについては合意していないわけです。その中で与党がフルという話をして、それを我々は受け入れていないだけですから。

5択、5つの中で議論をするということについては、時間をかけて議論しましょうと言っているわけで、席に着かないなんて言った覚えは一貫してないわけですね。

それともう一点は、未整備区間ではありません。整備するなんて決まっていなくて、その言い方については、ぜひ皆さん気をつけていただきたいなというふうに思っています。

○西日本新聞

最後に、新幹線から見て、環境アセスの費用、そろそろ新年度予算が結構固まってくると思うんですけども、フル規格推進派は、環境アセスの費用計上を求める声もあるんですけども、これについて知事としての所感はどのように思っているのでしょうか。

○知事

これは国のほうで考えられることなんだけれども、おおよそ佐賀県内のアセスを佐賀県の合意もなく勝手にやるというのは信じられないことだと思っています。

■新幹線西九州(長崎)ルート資料(PDF)

○朝日新聞

先ほどの質問に関連してなんですけれども、新幹線のアセスなんですけれども、鉄道局長は知事のおっしゃったように佐賀の同意がなければアセスを盛り込むつもりはないと明言しているんですけども、知事御自身も、次年度予算は年末ぐらいまでだと思ってしまうんですけども、アセス要求に同意するつもりはないという確認でお願いいたします。

○知事

もう全くその環境にないと思っています。

令和2年1月22日 知事定例記者会見[抜粋]

○FM 佐賀

まず、最初に幹事社のほうからご質問させていただきます。

先週、九州新幹線西九州ルート協議の進め方について、国交省の鉄道局が県庁に來られて、今後の協議の進め方について文書で提案されたかと思うんですけれども、まずはそちらの受けとめをお願いいたします。

○知事

国土交通省から示されました書面の内容ですけれども、単に5つの方式が並べられておまして、誰と誰が何回協議するとか、スケジュールや協議の体制など、事務的な進め方についてのお話がほとんどでした。

先日、面談した内容を担当部長から確認しましたがけれども、我々が関心があるのは、国がどういう考え方やスタンスで協議を行おうとしているのかということですので、これを今後確認しなければいけない。要は、我々が求めているのは事務的な進め方の問題ではなくて、国がどういうスタンスで我々と協議に臨もうとしているのかということですので、事務的にしっかりと確認するように指示をいたしました。具体的には、佐賀県のほうから確認をしっかりとったほうがいいと思いましたので、文書で質問を投げ返させていただきたいと思っています。

○FM 佐賀

今、国がどういうスタンスで進めたいと思っているのか確認をすると。先日、地域交流部の南里部長のほうからもそういうお話が出ましたけれども、具体的にどういうふうな文書を国のほうに返しているのかという部分とか、進捗状況がわかればお願いしたいと思うんですけれども。

○知事

まだ、進捗というか、議論している途中で、ただ、もうご案内のとおりだと思いますけれども、我々が関心あるところは、例えば、与党PTとの関係、フルというところを重く受けとめると言っているけれども、それが前提になっているのかとか、我々は5択のうち3つについては考え方を整理できているんですけれども、もし2つ、フルにということになると、しっかり時間をとらせていただかないという話もさせていただいているので、そういったところとか、いろいろまだまだ論点があるので、協議の前提として確認させていただきたいということを質問の形で投げさせていただきたいと考えています。

○FM 佐賀

質問に関しては、いついつまでにご回答をいただきたいみたいな要望とかというのはやられたりしているのでしょうか。

○知事

まず我々が質問を今から投げかけますので、その質問をしっかりと整理する時間を今とらせていただいているところです。

○西日本新聞

新幹線について2点質問があります。

先ほど佐賀県側からは5択での協議をこれまで求めてきて、国交省側からはこの前の提案ではフル規格を前提とした協議ではないというような説明とか、5つの選択肢を並列に並べて協議するというような答えがありましたけれども、国交省の対応について佐賀県に対する歩み寄りや変化を感じるものはありますか。

○知事

協議をしていくということは、お互いの立場をしっかりと踏まえながら話し合いをしていくということだと思いますので、そういった意味で、佐賀県のこれまでの行動だとか、あと、ずっと歴史的に長い話があるということだとか、我々自身の思いだとか、そういったものをしっかりと受けとめてほしいなと思っております。

その上で、やはりこれはこれから先、佐賀県の将来を大きく左右することでもあるので、いろんな数字もぐらぐらしておりますよね。貸付料の問題も含めた佐賀県の実質負担、それが先行きどうなるのかといったところも極めて不透明だし、将来の在来線のあり方ということ、我々は特急が1時間に2本、3本走っているというのは非常に素晴らしいと思っているので、それがどうなっていくのかということ。特に、今までの大牟田とかの例が示すようなことが起きるのかどうか。要は本数が減って、大阪直通は1日に2本しかなくて、料金が上がるとか、じゃ、果たして北陸とか青森は新幹線が通ったけど、人口が増えているのかとか、いろんな論点はいっぱいあると思うんですけど、そういったことについてしっかりとこれからいろいろ意見交換をする素地を整えていくというふうに思います。

○西日本新聞

あと、佐賀県は昨年大雨からまだ半年もたっていませんけれども、この状況の中で国交省のほうから可及的速やかな議論を求められていることについて、どのようにお考えになっていますか。

○知事

ですので、我々は、特にスピード感ということに関して言うと、これは確認させていただきたいなと思っております。特に、これだけ大きな話ですから、簡単に結論が出る

話ではないと思います。もちろん、特急で結ぶとかそういう話であれば整理は早いんでしょうけれども、なかなかそういうふうには多分いかないでしょうから、そうすると、我々とする、しっかり時間をかけながら議論をさせていただくということだと思います。例えば、国のほうがいつまでにか急いでくるようだとすれば、何かお考えがあるのかなということをしっかり確認しないといけないのかなと思っています。

○共同通信

九州新幹線長崎ルートについて確認させてください。先ほどのお話の中でもあったのでちょっとかぶるんですけども、先日の事務レベル協議で、国交省の課長が1月中の協議入りをしたいという意向を示されているんですけども、確認ですが、佐賀県の立場としては、確認事項がまだまだあるということで、1月中というのは難しいというようなご認識でしょうか。

○知事

それこそ今確認しなければいけないことの整理をしておりますので、1月中に協議入りするというのは到底考えられません。

令和2年2月12日 知事定例記者会見[抜粋]

○日経新聞

あと、九州新幹線長崎ルートのことをお聞きしたいんですが、先日、知事もお話しされていましたが、国交省側の考えを改めて聞きたいということで、書類で質問書を送るとい話をされていましたが、現状どういうふうになっているのか、教えていただきたいんですが。

○知事

国交省さんとの協議のあり方に関しては、あらかじめしっかり確認をしたいということをおかねてから申し上げておりました。その質問につきましては、この後、本日付で文書照会を行いたいと思っています。

そのものにつきましては、かねてから申し上げているとおり公開で皆さんにもお示した中で行いたいというふうに思います。

○日経新聞

本日付でやり取りするということですかね。それはどういった感じで送られているんですか。ファクスで送られるのか。

○知事

今日の午後、今から最終確認をしたいと思いますが、特に内容は十何項目だったと思いますが、特に確認したいのは、大臣から呼びかけもありました幅広い協議が与党検討委員会が求めているフル規格による整備を実現するための協議ではありませんよねという確認。それから、私は新幹線整備は地元合意が当然前提であると思いますが、佐賀県が合意しない限り協議は前に進まないということが担保されますねということなど、そういうことの確認を事前に今日の午後、文書で本日付で発出させていただきたいと思います。その手段につきましては、担当部に確認させていただきたいと思います。